



平成30年3月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成29年8月2日

上場会社名 キッコマン株式会社
 コード番号 2801 URL <https://www.kikkoman.com/jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀切 功章
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 コーポレートコミュニケーション部長 (氏名) 臼井 一起
 上場取引所 東
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月10日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無
 TEL 03-5521-5811

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	106,834	8.1	9,703	14.6	9,962	15.1	6,102	44.9
29年3月期第1四半期	98,863	2.1	8,469	0.8	8,653	4.7	11,073	97.3

(注)包括利益 30年3月期第1四半期 8,516百万円 (%) 29年3月期第1四半期 1,907百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	31.60	
29年3月期第1四半期	57.33	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	364,618	249,817	67.2
29年3月期	361,248	244,437	66.4

(参考)自己資本 30年3月期第1四半期 245,002百万円 29年3月期 240,009百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		16.00		18.00	34.00
30年3月期					
30年3月期(予想)		17.00		17.00	34.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	204,000	3.7	17,700	4.5	16,700	1.6	10,900	31.9	56.44
通期	413,800	2.9	34,500	5.0	33,000	3.0	21,500	9.7	111.32

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 1 社 (社名) 昆山統万微生物科技有限公 司、 除外 社 (社名)

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

30年3月期1Q	210,383,202 株	29年3月期	210,383,202 株
期末自己株式数	17,250,153 株	29年3月期	17,249,765 株
期中平均株式数(四半期累計)	193,133,254 株	29年3月期1Q	193,150,614 株

30年3月期1Q

210,383,202 株

29年3月期

210,383,202 株

30年3月期1Q

17,250,153 株

29年3月期

17,249,765 株

30年3月期1Q

193,133,254 株

29年3月期1Q

193,150,614 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料 5 ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

第1四半期決算補足説明資料は、TDnetで本日開示するとともに、当社ウェブサイトにも掲載しています。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	5
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期における世界経済は、欧州の景気に弱めの動きがみられるものの、米国の景気は着実に回復しており、全体としても緩やかな回復が続いております。一方、日本経済も、世界経済の回復に伴い輸出が伸び、個人消費にも持ち直しの動きがみられ、緩やかな回復基調が続いております。

このような状況下における、当社グループの売上は、国内については、しょうゆ、食品が前年同期を上回り、飲料も好調に推移したことにより、食料品製造・販売事業全体で前年同期を上回りました。海外については、食料品製造・販売及び食料品卸売事業ともに順調に推移し、前年同期の売上を上回りました。

その結果、当第1四半期の連結業績は次の通りとなりました。

<連結業績>

(単位:百万円, %)

区 分	前年同四半期		当第1四半期		対前年同四半期			為替差	為替差除	
	28年4月1日～ 28年6月30日		29年4月1日～ 29年6月30日		金 額	%	売上 比差		金 額	%
	金 額	売上比	金 額	売上比						
売 上 高	98,863	100.0	106,834	100.0	7,970	108.1	—	792	7,177	107.3
営 業 利 益	8,469	8.6	9,703	9.1	1,234	114.6	0.5	△67	1,301	115.4
経 常 利 益	8,653	8.8	9,962	9.3	1,309	115.1	0.5	△74	1,383	116.0
親会社株主に帰属 する四半期純利益	11,073	11.2	6,102	5.7	△4,971	55.1	△5.5	△54	△4,916	55.6
USD	109.07		111.61		2.54					
EUR	122.47		123.14		0.67					

<報告セグメント>

(単位:百万円, %)

区 分		前年同四半期		当第1四半期		対前年同四半期			為替差	為替差除	
		28年4月1日～ 28年6月30日		29年4月1日～ 29年6月30日		金 額	%	売上 比差		金 額	%
		金 額	売上比	金 額	売上比						
国内 食料品製造 ・販売	売 上 高	41,720	100.0	43,566	100.0	1,845	104.4	—	—	1,845	104.4
	営業利益	1,910	4.6	2,887	6.6	976	151.1	2.0	—	976	151.1
国内 その他	売 上 高	5,363	100.0	5,279	100.0	△84	98.4	—	—	△84	98.4
	営業利益	342	6.4	367	7.0	24	107.2	0.6	—	24	107.2
海外 食料品製造 ・販売	売 上 高	20,623	100.0	22,334	100.0	1,711	108.3	—	175	1,536	107.5
	営業利益	4,441	21.5	4,733	21.2	292	106.6	△0.3	0	291	106.6
海外 食料品卸売	売 上 高	37,528	100.0	42,658	100.0	5,130	113.7	—	677	4,452	111.9
	営業利益	2,038	5.4	2,071	4.9	32	101.6	△0.5	△43	76	103.8
調整額	売 上 高	△6,372	100.0	△7,004	100.0	△632	—	—	△60	△572	—
	営業利益	△263	—	△355	—	△92	—	—	△23	△68	—
四半期連結 損益計算書 計上額	売 上 高	98,863	100.0	106,834	100.0	7,970	108.1	—	792	7,177	107.3
	営業利益	8,469	8.6	9,703	9.1	1,234	114.6	0.5	△67	1,301	115.4
USD		109.07		111.61		2.54					
EUR		122.47		123.14		0.67					

各事業別セグメントの業績の概要は次の通りであります。

【国内】

国内における売上の概要は次の通りであります。

(国内 食料品製造・販売事業)

当事業は、しょうゆ部門、つゆ・たれ・デルモンテ調味料等の食品部門、豆乳飲料・デルモンテ飲料等の飲料部門、みりん・ワイン等の酒類部門からなり、国内において当該商品の製造・販売を手がけております。各部門の売上の概要は次の通りであります。

■しょうゆ部門

しょうゆは、家庭用分野では、「いつでも新鮮」シリーズが「新鮮な生しょうゆのおいしさ」、「鮮度維持」、「使いやすさ」という付加価値が市場に浸透し、店頭販促やテレビ広告も強化した結果、順調に売上を伸ばしました。業務用分野は前年同期を下回りましたが、加工用分野は順調に推移しました。この結果、部門全体としては前年同期の売上を上回りました。

■食品部門

つゆ類は、家庭用分野では、ストレートタイプつゆの「具麺シリーズ」が好調に推移し、濃縮つゆは前期にリニューアルした「濃いだし本つゆ」が売上を伸ばし、前年同期を上回りました。たれ類は、主力商品である「わが家は焼肉屋さん」シリーズが好調に推移し、「ステーキしょうゆ」、業務用分野も売上を伸ばしたことから、前年同期を上回りました。「うちのごはん」は、テレビ広告や販促キャンペーン活動の効果もあり、前年同期を上回りました。デルモンテ調味料は、「リコピンリッチ」や「ケチャップハーフ」などの高付加価値品が好調に推移しましたが、価格体系変更による影響があり、全体としては前年同期を下回りました。この結果、部門全体としては前年同期の売上を上回りました。

■飲料部門

豆乳飲料は、健康志向の高まりを背景に、特定保健用食品の商品が伸長しました。また飲用だけでなく料理素材として豆乳を使う消費者も増えており、前年同期の売上を上回りました。

デルモンテ飲料は、トマトジュースが市場の拡大を背景に大きく売上を伸ばし、また野菜ジュースも堅調に推移したことから、前年同期の売上を上回りました。この結果、部門全体としても前年同期の売上を上回りました。

■酒類部門

本みりんは、新型容器の「米麴こだわり仕込み本みりん」は好調だったものの、「芳醇本みりん」が振るわず、前年同期を下回りました。国産ワインは、業務用大型容器が前年同期を下回りましたが、「甲州酵母の泡」等の日本ワインが順調に推移し、前年同期を上回りました。輸入ワインは好調に推移しました。この結果、部門全体としては前年同期の売上をわずかに下回りました。

以上の結果、国内 食料品製造・販売事業の売上高は435億6千6百万円（前年同期比104.4%）、営業利益は28億8千7百万円（前年同期比151.1%）と、増収増益となりました。

(国内 その他事業)

当事業は、臨床診断薬・衛生検査薬・加工用酵素、ヒアルロン酸等の化成品等の製造・販売、不動産賃貸及び運送事業、グループ会社内への間接業務の提供等を行っております。

臨床診断薬は好調に推移しましたが、ヒアルロン酸等の化成品事業が振るわず、前年同期の売上を下回りました。この結果、部門全体としては前年同期の売上を下回りました。

この結果、国内 その他事業の売上高は52億7千9百万円（前年同期比98.4%）、営業利益は3億6千7百万円（前年同期比107.2%）と、減収増益となりました。

【海外】

海外における売上の概要は次の通りであります。

(海外 食料品製造・販売事業)

当事業は、しょうゆ部門、デルモンテ部門、健康食品等のその他食料品部門からなり、海外において当該商品の製造・販売を手がけております。各部門の売上の概要は次の通りであります。

■しょうゆ部門

北米市場においては、家庭用分野では、主力商品であるしょうゆに加え、しょうゆをベースとした調味料などの拡充に引き続き力を入れ、当社のブランド力を生かした事業展開を行ってまいりました。また、加工・業務用分野では顧客のニーズに合わせたきめ細かな対応を行い、両分野とも順調に推移いたしました。この結果、前年同期の売上を上回りました。

欧州市場においては、重点市場であるフランスなどで堅調に売上を伸ばし、前年同期の売上を上回りました。

アジア・オセアニア市場においては、シンガポール、インドネシアなどで売上を伸ばしました。また、中国の製造会社の実績が前年第4四半期より加わり、全体として前年同期を大きく上回りました。

この結果、部門全体では前年同期の売上を上回りました。

■デルモンテ部門

当部門は、アジア・オセアニア地域で、フルーツ缶詰・コーン製品、トマトケチャップ等を製造・販売しております。

トロピカルフルーツ缶の供給が十分に回復しておらず、主要市場である韓国、香港、中国で前年同期の売上を下回りました。

■その他食料品部門

当部門は、主に北米地域において、健康食品を製造・販売しております。

医師ルート向けは堅調に推移しましたが、一般店舗ルートが振るわず、前年同期の売上をわずかに下回りました。

以上の結果、海外 食料品製造・販売事業の売上高は223億3千4百万円（前年同期比108.3%）、営業利益は47億3千3百万円（前年同期比106.6%）と、増収増益となりました。

(海外 食料品卸売事業)

当事業は、国内外において、東洋食品等を仕入れ、販売しております。

北米では、アジア系マーケットにとどまらず、ローカルマーケットへのさらなる浸透を進め、売上を伸ばしました。また、欧州、アジア・オセアニアでは引き続き市場が拡大しており、各地域で売上は順調に推移いたしました。この結果、前年同期の売上を上回りました。

この結果、海外 食料品卸売事業の売上高は426億5千8百万円（前年同期比113.7%）、営業利益は20億7千1百万円（前年同期比101.6%）と、増収増益となりました。

以上の結果、当第1四半期の連結業績は、売上高は1,068億3千4百万円（前年同期比108.1%）、営業利益は97億3百万円（前年同期比114.6%）、経常利益は99億6千2百万円（前年同期比115.1%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は61億2百万円（前年同期比55.1%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、1,673億5千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ3億9千8百万円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が減少したものの、商品及び製品、受取手形及び売掛金が増加したことによるものであります。固定資産は1,972億6千万円となり、前連結会計年度末に比べ29億7千万円増加いたしました。これは主に、投資有価証券が増加したことによるものであります。

この結果、総資産は、3,646億1千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ33億6千9百万円増加いたしました。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、493億1千8百万円となり、前連結会計年度末に比べ25億5千7百万円減少いたしました。これは主に、未払金が増加したことによるものであります。固定負債は、654億8千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ5億4千6百万円増加いたしました。これは主に、繰延税金負債が増加したことによるものであります。

この結果、負債の部は1,148億円となり、前連結会計年度末に比べ20億1千万円減少いたしました。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産の部は、2,498億1千7百万円となり、前連結会計年度末に比べ53億7千9百万円増加いたしました。これは主に、利益剰余金、その他有価証券評価差額金が増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は67.2%（前連結会計年度末は66.4%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績につきましては、最近の決算短信（平成29年4月27日発表）により開示を行った業績予想から変更はありません。なお、業績等に影響を与える事業等のリスクについては、最近の有価証券報告書（平成29年6月27日提出）により開示を行った内容から重要な変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	45,297	41,490
受取手形及び売掛金	54,930	55,793
有価証券	1,184	1,320
商品及び製品	34,120	37,284
仕掛品	10,855	10,909
原材料及び貯蔵品	4,640	4,890
繰延税金資産	4,534	4,613
その他	11,877	11,618
貸倒引当金	△483	△564
流動資産合計	166,958	167,357
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	42,449	42,357
機械装置及び運搬具(純額)	33,987	35,119
土地	22,273	22,265
リース資産(純額)	234	236
建設仮勘定	3,592	3,475
その他(純額)	3,807	3,923
有形固定資産合計	106,344	107,379
無形固定資産		
のれん	5,826	5,641
その他	5,769	5,550
無形固定資産合計	11,595	11,192
投資その他の資産		
投資有価証券	63,180	65,639
長期貸付金	919	823
退職給付に係る資産	6,523	6,499
繰延税金資産	2,442	2,267
その他	4,045	4,218
貸倒引当金	△762	△758
投資その他の資産合計	76,350	78,689
固定資産合計	194,290	197,260
資産合計	361,248	364,618

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,196	21,596
短期借入金	2,820	2,876
リース債務	44	43
未払金	16,771	13,424
未払法人税等	1,888	3,207
賞与引当金	2,383	1,025
役員賞与引当金	101	25
その他	6,668	7,118
流動負債合計	51,875	49,318
固定負債		
社債	30,000	30,000
長期借入金	13,300	13,300
リース債務	54	56
繰延税金負債	9,048	9,636
役員退職慰労引当金	786	720
環境対策引当金	349	347
退職給付に係る負債	4,521	4,553
その他	6,877	6,868
固定負債合計	64,936	65,482
負債合計	116,811	114,800
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,599	11,599
資本剰余金	13,914	13,914
利益剰余金	222,614	225,232
自己株式	△30,600	△30,602
株主資本合計	217,528	220,144
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	20,306	21,873
繰延ヘッジ損益	△3	3
為替換算調整勘定	2,652	3,317
退職給付に係る調整累計額	△473	△335
その他の包括利益累計額合計	22,481	24,858
非支配株主持分	4,427	4,814
純資産合計	244,437	249,817
負債純資産合計	361,248	364,618

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	98,863	106,834
売上原価	58,930	64,033
売上総利益	39,933	42,801
販売費及び一般管理費	31,463	33,097
営業利益	8,469	9,703
営業外収益		
受取利息	29	65
受取配当金	947	539
持分法による投資利益	28	50
受取賃貸料	180	183
デリバティブ評価益	114	513
その他	4,738	385
営業外収益合計	6,038	1,736
営業外費用		
支払利息	256	121
その他	5,598	1,356
営業外費用合計	5,855	1,477
経常利益	8,653	9,962
特別利益		
有形固定資産売却益	—	5
投資有価証券売却益	149	—
特別利益合計	149	5
特別損失		
投資有価証券評価損	—	605
関係会社株式売却損	377	—
特別損失合計	377	605
税金等調整前四半期純利益	8,425	9,362
法人税等	△2,723	3,152
四半期純利益	11,149	6,210
非支配株主に帰属する四半期純利益	75	107
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,073	6,102

(四半期連結包括利益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
四半期純利益	11,149	6,210
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	906	1,506
繰延ヘッジ損益	△56	6
為替換算調整勘定	△12,617	680
退職給付に係る調整額	260	139
持分法適用会社に対する持分相当額	△1,551	△26
その他の包括利益合計	△13,057	2,306
四半期包括利益	△1,907	8,516
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,938	8,467
非支配株主に係る四半期包括利益	30	49

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動

連 結 (新規) 昆山統万微生物科技有限公司

(実質支配力基準により関連会社(持分法適用会社)より異動)

特定子会社以外の子会社の異動

連 結 (新規) JFC NEW ZEALAND LIMITED (重要性の観点により非連結子会社から連結子会社へ異動)

JFC NORDEN (SWEDEN) AB (重要性の観点により非連結子会社から連結子会社へ異動)

(除外) 江戸川食品(株) (キッコーマンフードテック(株)と合併)

JFC RESTAURANT GmbH (重要性の観点により連結子会社から非連結子会社へ異動)

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 食料品製 造・販売	国内 その他	海外 食料品製 造・販売	海外 食料品 卸売	計		
売上高							
外部顧客への売上高	41,357	2,058	17,988	37,459	98,863	—	98,863
セグメント間の内部 売上高又は振替高	363	3,305	2,634	69	6,372	(6,372)	—
計	41,720	5,363	20,623	37,528	105,235	(6,372)	98,863
セグメント利益	1,910	342	4,441	2,038	8,733	(263)	8,469

(注) 1. セグメント利益の調整額 △263百万円は、主に全社費用配賦差額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	国内 食料品製 造・販売	国内 その他	海外 食料品製 造・販売	海外 食料品 卸売	計		
売上高							
外部顧客への売上高	43,170	1,844	19,251	42,568	106,834	—	106,834
セグメント間の内部 売上高又は振替高	395	3,434	3,083	90	7,004	(7,004)	—
計	43,566	5,279	22,334	42,658	113,839	(7,004)	106,834
セグメント利益	2,887	367	4,733	2,071	10,059	(355)	9,703

(注) 1. セグメント利益の調整額 △355百万円は、主に全社費用配賦差額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。